

■編集・発行 NPO法人 大谷石研究会

〒321-0345 栃木県宇都宮市大谷町1249(株式会社とちぎテラス内)
TEL028-678-2720 FAX028-678-2740

http://www.ooyaishi.org/ mail:info@ooyaishi.org

編集責任者 佐藤 公紀

大谷石研究会では、会員の募集をしています！

入会の資格は、年齢、性別、職業、地域を問いません。
「大谷石が好きだ！」という事だけです。

現在、20代から80代の約120名の会員がいます。
年会費は個人会員4,000円、特別会員10,000円です。
入会希望者は、右記QRコードよりご確認ください。



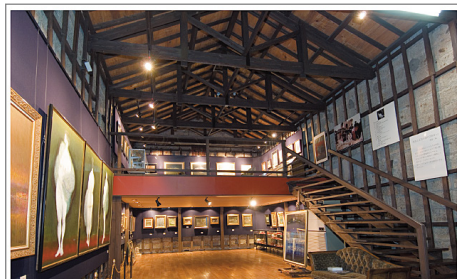
和氣記念館を訪ねて

NPO法人大谷石研究会 理事 神原 浩司
(株式会社かんばら設計室)

3月14日(土)、塩谷町にある「和氣記念館」を研究会8名で見学してきました。苔寺や能を題材とした「幽玄の画家」として知られる和氣史郎の作品を展示した、石蔵を改修した個人美術館です。史郎は東京美術学校(現東京芸術大学)で学び、精神的なもの、日本の伝統的な文化への関心を深めて、独自の作品を多く残しています。史郎の出生地であるこの場所に、本人の作品を展示及び收藏する施設が当時の面影を残して存在することは、大変意義のあることだと思います。

まず、記念館のエントランスとして私たちを迎えてくれたのは、史郎の生家だった母屋です。低い下屋、大谷石と取り合う木部(軒裏や格子戸)によって造られる佇まいが美しく、記念館の導入部として、来館者に落ち着きと期待感を与える役割を果たしています。そこを抜けると、大谷石蔵を改修した展示室1号館。ほぼ当時のままの大谷石壁の表情が放つものは、年月を経た圧倒的な存在感です。肥料商の蔵ということで、建物のボリウムが大きいのですが、職人の手で加工された石達が様々な「顔」を持ち、飽きのこないファサードを形成しているのだと感じました。そして内部には、表情豊かな大谷石と、黒く色付いた立派な木造小屋組が織りなす、簡素でありながら風格のある素晴らしい空間が待っていました。史郎の作風や所蔵品の質を考えて照明の明るさは抑えてあり、更に気持ちを高揚させてくれます。こういった場面では、展示品が空間に負けてしまつことが往々にしてあるのですが、史郎の作品は、見事に空間と一

体になっていました。「この絵は在るべくしてこの場に在る。」と感じることは、特定の作品を展示する個人美術館にとって、そして作家本人にとって最も重要なことではないでしょうか。手入れの行き届いた庭園を楽しむながら敷地の奥に進むと、地元の「船生石」が張られた展示室2号館があります。船生石は大谷石と比べると「ミソ」が少なく、きめ細かい白色の綺麗な凝灰岩です。現在採掘されていないこの石が全面に施されたこの建物は、大変貴重な石蔵と言えます。向かいにある收藏庫の大谷石との対比を見るのも面白いですね。收藏庫には、まだ展示されていない多くの作品があり、今後はこれらの活用を含めて更に充実を目指すとのこと。近くに行かれる際にはぜひ立ち寄ってみてください。



1号館内部 昭和33年築



母屋全景と1号館(左側)



2号館(右側)と收藏庫(左側)

2号館入り口 明治44年築
休館日:月曜日
開館時間:10時 - 16時
入館料:大人500円、中学生以下無料

一写真集「大谷石百選」より



会員紹介

「時間と建物が紡ぐ人の暮らし」

NPO法人大谷石研究会 会員 石川 瑞樹
(株式会社 シオダ建築デザイン事務所)



私が初めて大谷石にふれたのは、大学で建築を学びはじめてすぐの頃、授業で大谷地区を見学したときでした。大谷資料館の採掘場跡を見て、その広さに圧倒されたのを覚えています。

その後、宇都宮大学の遠藤康先生の研究室に所属し、研究の中で大谷石蔵にふれる機会がありました。当時私は、益子町の商店街で建物の改修事例を研究していました。その中で大谷石の米蔵を改修して雑貨店を営んでいる事例に出会い、衝撃を受けました。そこでは、大谷石に刻まれた傷跡、米蔵時代の間仕切りの跡などをあえて残しながら、新たに大谷石の壁で室を作っていました。ただ保存するだけでなく、かつての暮らしの痕跡を残しながら、それに調和するように新たな営みの空間として引き継ぐという可能性を感じました。他の石蔵でもそんな可能性があるのか気になり、大谷石研究会に入ることを決めました。

実は私が建築の道に進んだきっかけは、私の家系が関わっています。私の実家は山梨県の南の方、身延町というところにあります。日蓮宗の総本山久遠寺が有名です。私の育った集落では、宮大工の家系が多く集まっており、私の先祖も宮大工として、いくつかの寺社建築の建造に携わっていたと聞いています。そんなルーツに影響されてか、幼い頃から、古くから残る建物に興味を惹かれていました。

建物には、そこで暮らしてきた人の記憶が刻み込まれていると思っています。古くから残る建物に興味を惹かれていたのも、人の記憶の痕跡とその温もりを感じていたからかもしれません。壊され廃墟となっている建物も多い中、何を残し何を新しくして未来に繋げていくか。大谷石文化に触れながら、常に考えていきたいと思っています。